

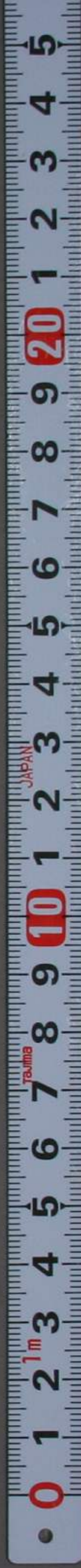
長野土産

附
信濃名所案内
全

和装本

ル 4

4568



4568

長聖土産

付
信濃名所案内

子墨

信濃 二書房合梓



并啓過りは古野土産一冊法送下
 難有法祀致々而地は名不古蹟也
 多のうねは一々以漫遊してなりし
 此の今ももて遺憾ありには
 同たし今も書あり姨捨山の月
 日この後多々ありわらさる
 姨捨山より月を月をよみよ歌古今

君のたまはるゝの
ふまのく記候し
る字結のちと
はせ産

二百七

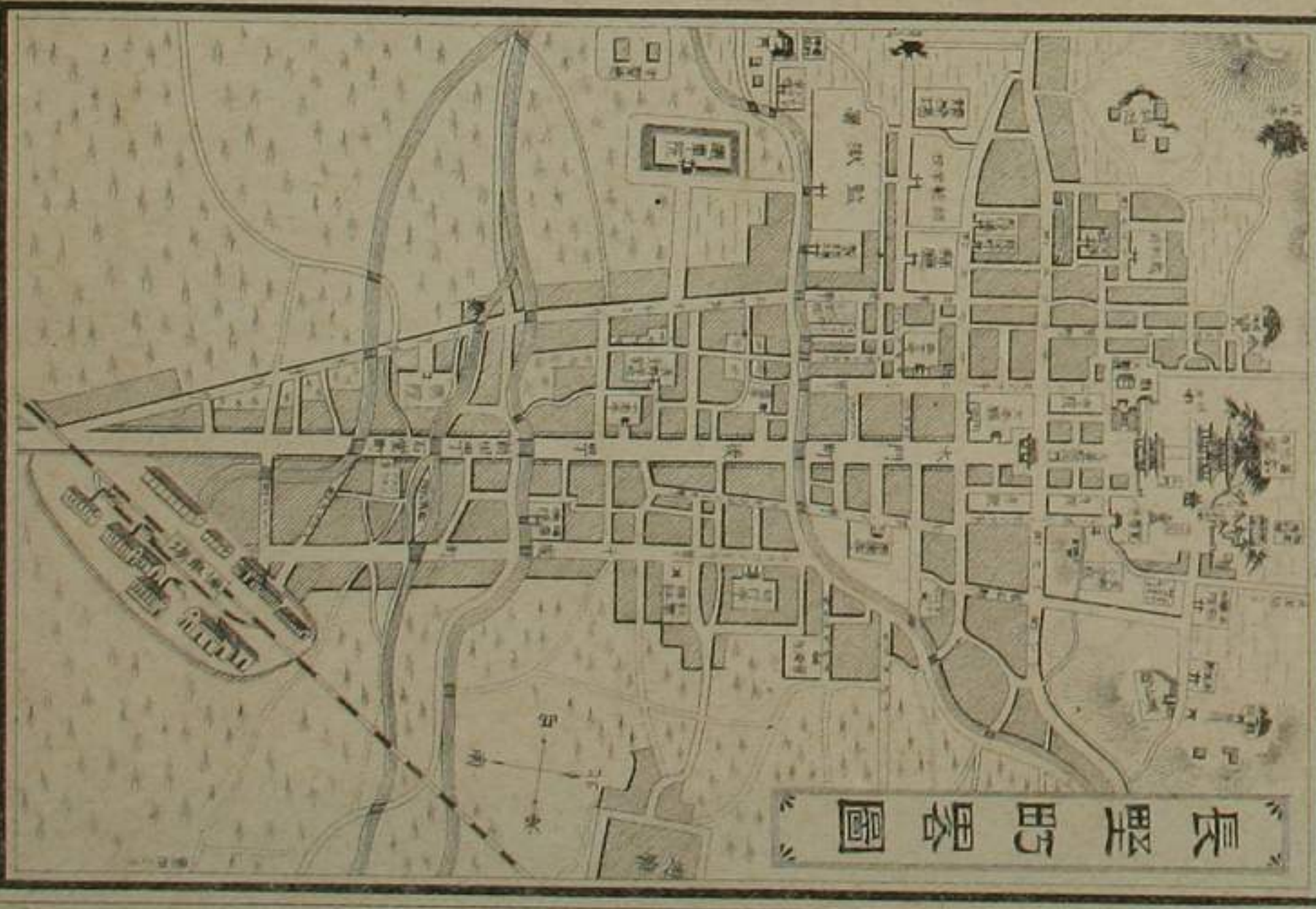
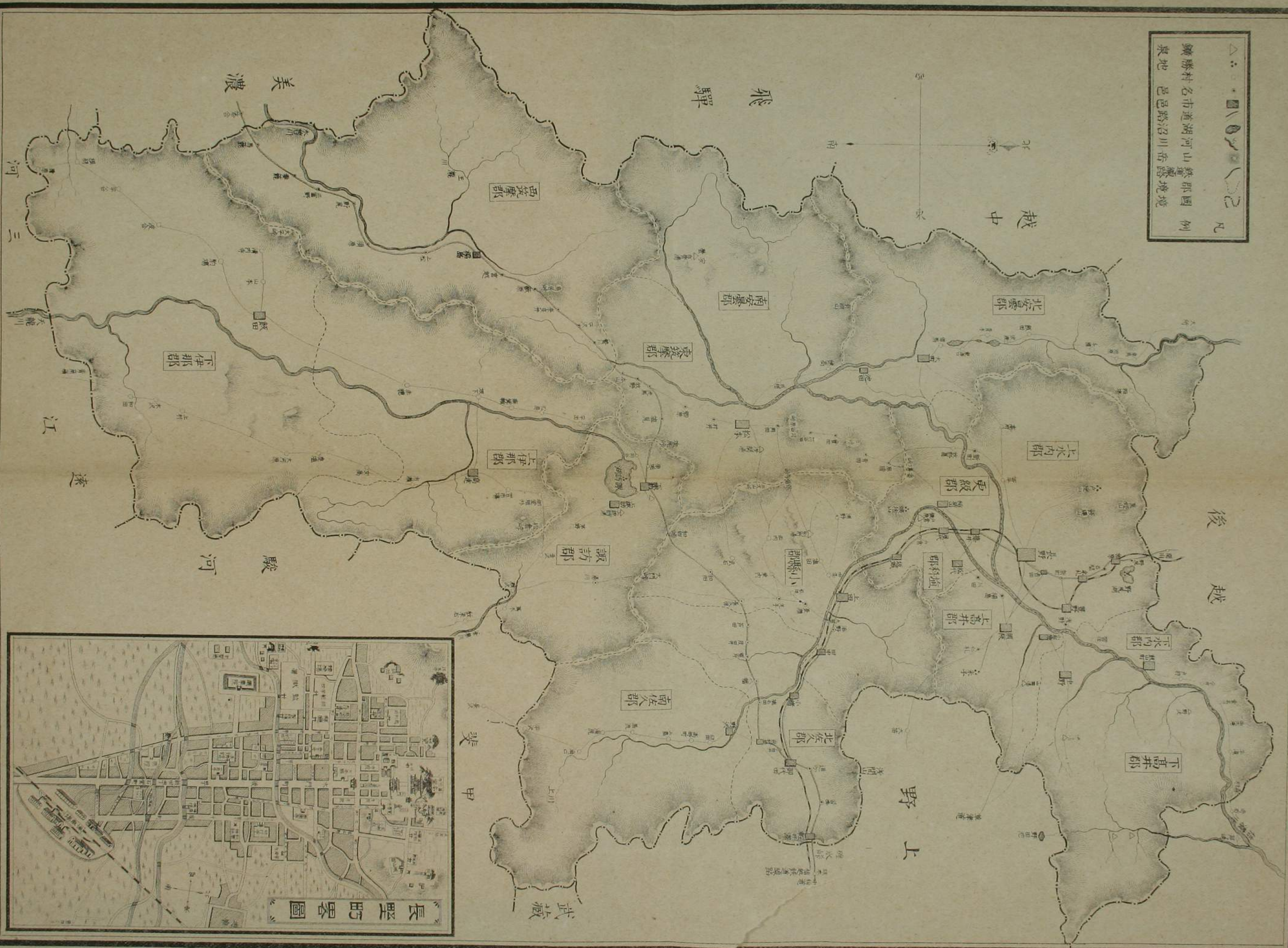
無言

少事

侍

信濃全圖略圖

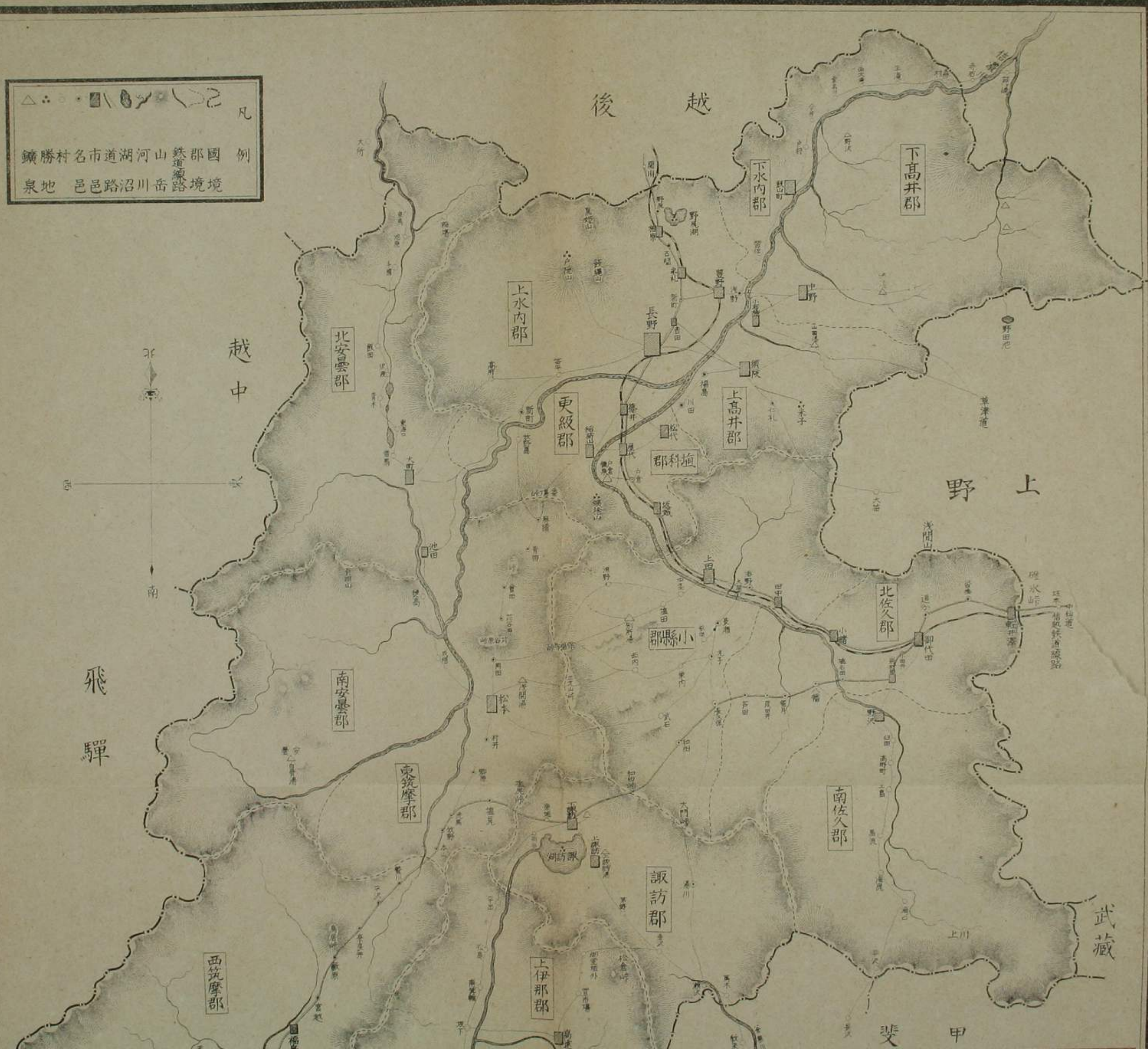
凡例
 國界 縣界 郡界
 市 町 村 邑 路 沼 川 岳 地
 鑛 勝 村 名 市 道 湖 河 山



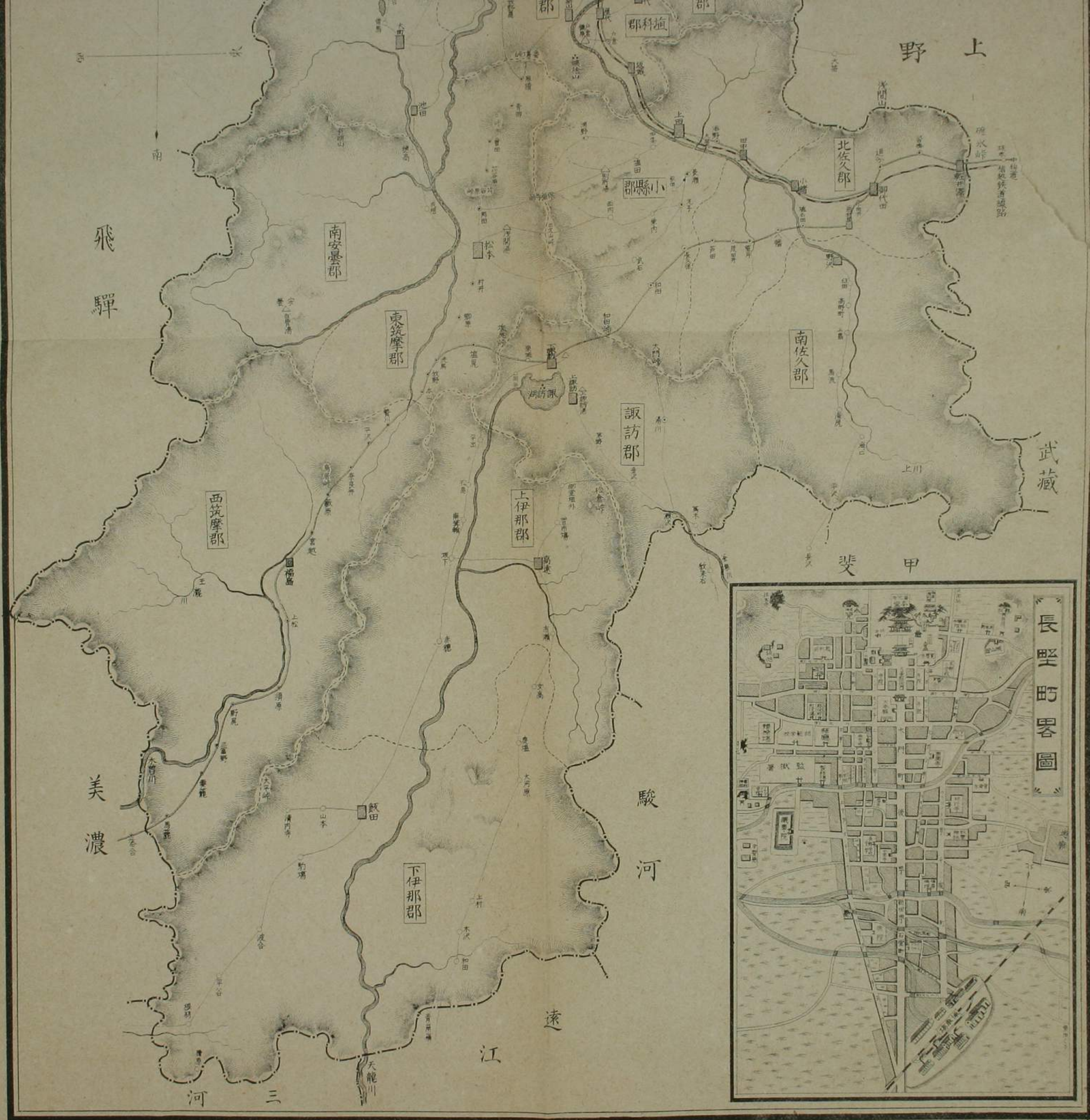
信濃省全圖略圖

信濃全國略圖

凡
 例 國郡縣 山 河 湖 道 市 名 村 勝 鑛
 境 路 岳 川 沼 邑 邑 泉 地



信濃全圖
 傳文



Handwritten notes in the top right corner, including the name '長野町' (Echigo City) and other illegible characters.

長野土産

附信濃名所案内

善光寺縁起

善光寺に安置せる阿彌陀如来の像は、畏くも、敏明天皇即位十三年冬十月百濟國より貢獻せられたる文を、尺五寸の金像として、昔中天皇より大聖釈迦牟尼佛蘭浮檀香を以て造らせられたる如き、如来の光輝と、新造の光輝とを以て檀香と銘し、三尊の佛体を化せり、其後、評多の聖王を以て、百濟國より渡り、聖明王の恭敬を蒙り、遂に桑園より渡来せり、當時、延臣、物部、部、尾、等、中、臣、鑑、子、可、為、又、火、の、難、を、罹、り、敏、達、天、皇、の、御、宇、に、再、び、拍、部、古、屋、中、臣、鑑、子、可、為、に、難、波、の、堀、に、投、ぜ、ら、る、其、後、推、古、天皇の九年、は、信、濃、國、伊、那、郡、宇、治、村、の、本、田、善、光、有、る

本堂之圖



もの園引上りて
園の時籾波の垣に
るよ中より光
の蓋と三世の
に東より到る
せんと告げ玉
光の肩に上り
堪へて背負ひ
貧乏なるを以
の地を擇び小
の園引上りて
園の時籾波の
るよ中より光
の蓋と三世の
に東より到る
せんと告げ玉
光の肩に上り
堪へて背負ひ
貧乏なるを以
の地を擇び小

又遷りて如來佛
新くまると再三
侍り時に皇極天
を本妙肉形柳原
おし先づ小堂を
るを以て天皇勅
善光寺と稱す又
聖徳太子の田租
堂内

堂内

善光寺の伽藍ハ
又遷りてと九度
石より寶龜寺の
善光寺の伽藍ハ
又遷りてと九度
石より寶龜寺の

る電表子等之筆致映射して賽詣の人盡く仰ぎて雲
後の一也高きを云ふ本堂高さ十丈二重屋根柱木造
おして間口十五百粵尺二十九百三尺柱の毎百三十
六本筆木の毎一法兼經久堂の敷石八千九百三
四才に上り板あり南正面の扉口は大香燭を置き
右側に左殿を置く左の窓に左殿あり堂に松を挿む
是と親殿上人坐生の松と云ふ種の間へ席百畳を敷
きてふ人坐容る座く一丈高き石を内陣と云ひ朱
半を捲きて紫の礎之を約を東の才と云ふ光及び朱
生殿長子坐依の三儀をあげ西の才ハ即ち木を
あまの石あり筆柱朱探七重の戸帳縁羅襪を包
む一丈二回の扉柱は僅かに一戸帳を乗くのみ否小

芳人あり前堂の僧あり靈符佛印不降除符を請ふ也
のあまハ内陣の東の才と云ふ之を換く

境内

寺域東西百四十七百南九十四百西積一万五千三
百餘坪御堂の東南に鐘樓あり地震撲死臺あり鐘樓
ハ嘉永六年建る石造堂の西南一ハ鐘堂あり兼
あり市佛石大佛あり鐘堂ハ高さ四丈六尺二寸
六尺三寸三門ハ寛延三年五月建る所と云ふ巨棟高
極二層樓なり高さ六丈六尺七寸八分十一間一尺三
寸梁百四寸二尺四寸二五門ハ市堂を距る南四丁斗
里佛利臺地に入る圓惟ハありて文久四年工を興し
堂祖元寺七月竣工せしあり高さ又丈一尺二寸八分

四丈三尺四寸梁百二丈五尺二寸高堂より二天門
 趾まを鋪不を布き其高例は高堂楹比一佛龕を珠を
 臺るものハ小兒の段具を臺るもの之伍一孤地備燭
 を備ぐものハ女子の髮具を備ぐもの之伍一混ト西ハ
 中門西と臺るものあまハ愚中ハ氷を臺るものあり
 園子と臺るものハ中門を臺るものハ編屋ハ蕎麦屋ハ各
 棟ありて氣詣人を呼ぶ境内の権堂ハ新の如く況
 んや孫日をや不懸留云せん才あり又山内四十六坊
 あり之と元法中宗東戸の三ノ下つ申古前法ハ二十
 一坊宝琳院系王院吉符院福生院光形院蓮在院常法
 院教授院最務院常智院蓮壽院号務院本堂院玉照院
 世尊院長善院考信院實務院威徳院良性院圓乘院中

能ハ十五坊堂照坊堂明坊
 以連坊正智坊向佛坊向蓮
 坊鏡善坊淨願坊豐材坊兄
 部坊崎之坊常同坊徳以坊
 隠以坊正任坊東戸ハ十坊
 甚妙坊正定坊善量坊善以
 坊通照坊称名坊井泉坊蓮
 地坊玄澄坊蓮以坊あり
 大勸進

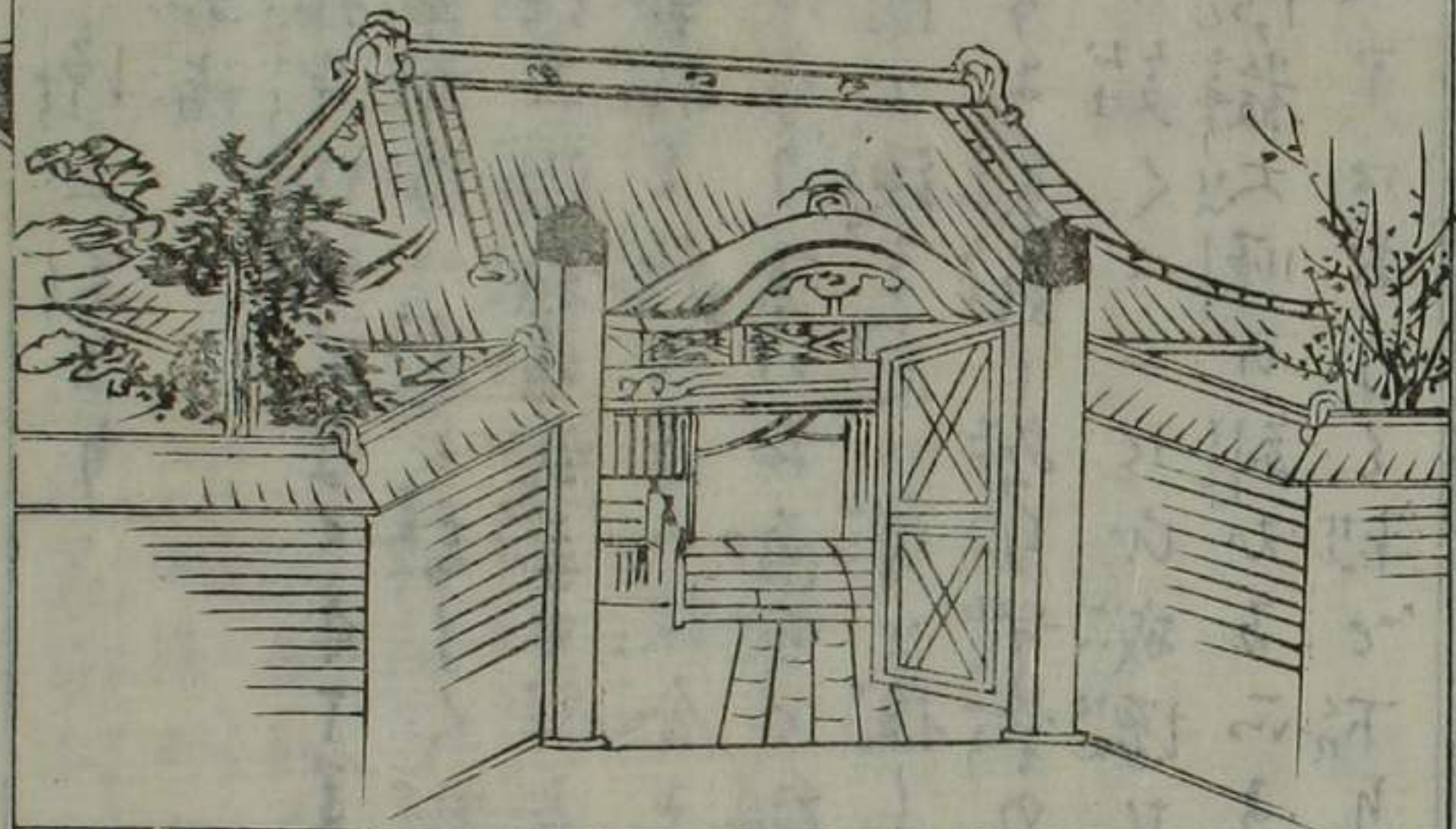


大勸進之圖

三門の下右側ハあり
 白壁お映して三門は観
 三門ありは壕あり一橋を架

大本願し
 明徳四年
 六月二日の
 大火の為
 に焼失し
 今工事中
 あり

大本願ノ圖



水六十二万面積四千条坪
 往古菴殿女子の女を尼と
 ありし如く未だ仕せしめ
 よりそ例に準ひて之を東
 地の深紳の娘に譲りて任
 事堪ゆるものを任職と名
 せ即ち善光上人と稱せし
 るものなり善光といふは
 大勧進と云ふは務職大本願
 と對等分掌係立の命によ
 りて身仕名内佛ありて
 血脈なるものを授く大本

寺城頗る不度く東西七十六間宗南北六十万面積四
 千六百餘坪庭園は伊山あり亭榭あり修竹茂林不
 種漏洒しして四時を遊ばしむるに任職ハ東殿山北殿山
 等より善光上人の遺蹟にありて善光上人ハ天台宗の
 一ノ三井古の心轄たりし其後善光上人ありて高
 聖山に居り寛弘年中より東殿山に居りて善光上人ハ天台
 宗の善光上人明徳十一年の上陸下東北所巡幸の際本
 寺を御旅籠と留りてせらまはり
 大本願
 二王門の下にありて櫓寶珠高く雲霧を捲き鐘鼓の
 子曉をるものも大本願と云ふは境内東西四十一万南

取の海土宗なり

本邦中何れ地となく未了善光と云ふ諸君の多し... 彼岸の海に最も善く持は彼岸を悉く名づけ美濃... 尾張三河越後武蔵甲斐上野等の人を屯居集一如來... の靈験を仰ぐ或は旅舎に投ずるあり或は坊内を宿... 亦あり或は和通を稱して三又群を遊一板の... 爾園又頭を定一層と稱し男女となく老少となく... の又よ集衆一各自望量の冥福を祈るあり又集衆の... もの多くハ一板に戒壇なるものを廻る是ハ弘仁六... 年修教大師の刻あるにまで内陣板敷の下にあり東... 子入里口ありと説き下り三度廻りて之の口より出る

なり其中ハ晴くして觀板のみ一信託に板碑邪見... するもの壇中必らき怪異に逢ふと云は傳へり又市... 類を頂くと云ふ事あり此其ハ寶器中善名のもの... 一十月七日より十五日迄の百集諸人の願に鑄印を... 押す一月七日ハ集衆人之がおは珠は多く堅く先々... 筆の明く聲かまびき

夜賽

ハ夜時を石も甚なりと云きかも嚴寒風雪の甚る... ゆるそなハ夜時ハ嚴冬より年夜過ぐるまを市中の... 男女近里の人々海に如く寄来り皆晩涼を境内ハ網... 子市堂より大門所後町に至るまを此の音聲は... 肆を閉ざ琉璃燈籠百ふ光燦天を魚曳空に不夜城の

観あり其内にも熱湯を極むる一七月十三日十四日
と七月三十日と八月十二日の夜より七月十三日十
四日ハ弥栄社の祭礼にて本屋を各所より出で長
聖を引人を以て兩月七月三十日ハ裏庭に櫓を
造りて賽老奉て大立珠を採り堂内よりかき極め之
を採る其味極百雷の一時より下へ来るおかし
氣味なるもの移し八月十二日ハ招魂盆會に
やうな祭事なるもの多く秋肆燭を燈る花枝を
のまゝと云ふもの強香は菓類は皆生靈棚に
さものを高く高く擡ぐ扇燈教燈は達しとやま
旅舎 附 附 附
旅舎の敷凡そ一百二十大門町に東側に彌栄社を

對 柳屋清水屋西側ハ扇燈
館 柳屋清水屋西側ハ扇燈
田 扇燈あり扇燈ハ四層櫓
中 天ノ下等之旅舎人せ
新 接 東之門所西橋所西町
殿 在 一 葛 藤 手 代 家 子 呼 び 喚 び 之 達 上 下 迎
不 貴 親 紳 士 の 本 趣 せ ら ぶ 之 の 八 多 く 藤 屋 扇 燈 近
山 屋 小 館 所 あり 花 房 屋 裏 櫓 燈 下 籠 せ ら ぶ 之 常
と 寺 堂 とも 藤 屋 とも 先 年 伏 見 宮 敷 下 籠 せ ら ぶ 之 常
ら せ ら せ たり 又 寓 坊 として 四 十 六 坊 皆 州 郡 を 別 ち て
祭 詣 人 を 迎 へ 爺 婆 一 様 の 管 笠 子 生 團 子 詰 一 葉 光 吉
滿 中 笠 佛 講 中 あり として 敷 名 際 を 爲 一 群 七 爲 一 群
と 多 く 之 子 投 せ ぶ あり

物館此
頃故あり
歟

公園

ハ善光寺の境内にありて廣袤七百五十餘坪西
南木柵を以て塙を劃り東北ハ塙塙を以て圍免り園
内竹林あり地沿あり松竹あり梅柳あり桃李あり藤
子蓬小牡丹子牡丹に美を競ひ妍を闘ハハ四時ハ風
光人を以て目を出めハ地ハ面ハ松風亭あり
ものあり在木を雜植す亭内雜潔風月の極びハ適を
常に餅を備ふ又魚を沽る又寶席皆宜亭あるものあ
り圍基の出入絶ゆる時亦く亭中の法集を以て多く
此亭に於て又球室あり年餘館と云ふトンカチ
の寄曉子徹するに屬あり又博館ありて下の産
物をもとて廣く内外の寄不賣物を聚めて此處に經

五郡一望三
十里開千
高嶽半山
雲根田記
平於海村
都如島嶼
大産詩佛

覽せしむ園内を道遙悠
々るもの考に甚れ多
城山 附城山 飯
善光寺を距る東二所斗り
一小丘あり城山といふ
丘上ハ神社建名才富節
善神子神社 巧里古音村上
善清の屋 横山某此地に築
城せしと云ふ一壘下りて
白時小橋あり四重橋と云
不齋天民木り極び信中策
一橋の扁額を其跡に

圖の山城



然堂くありてを月亭あるもの有り
 今上治十一
 明年の隊丘上は霧の生は燧火の長
 重の五大建業の一
 なる珠山館も亦此堂を在りて一望
 千里の景を占め
 り此館は明治十九年の新築して
 庶百四十
 餘屋を敷くべく欄上掲下の眺望
 絶佳ならざるは
 なく新曉暮天月の清冷をの艶妖
 意の皎潔四時風色を
 養ふ一嬉嬉の名傑松代須坂中野
 の向城市眺く指
 をべく犀千曲の二大川の綴柳抱
 渾一とす里河中原の古戦場ハ
 近く眉津に接し凌石
 嶽ハ遠く香煙渺茫の間は屹立
 寸眸に蔽る所奇状
 殊美秀草の能くあまぐさ
 さらしあはれ貴殿の響響
 士神高の真意亦多く此館に於て
 実此館の建築

八本邦中より過ぐるもの固より
 多かるる風色の新
 眺望の真意を占むるは
 否よ出るもの餘からん
 神社

社ハ城山に在り
 建名才富翁翁神ハ社ハ不
 疑に是史方の境内御堂の
 地ハ在り
 一を明治十二年十二月の地
 工遷坐一在り
 八
 八 二月三日
 八 三月五日
 八 四月十日
 八 五月十五日
 八 六月二十日
 八 七月二十五日
 八 八月三十日
 八 九月五日
 八 十月十日
 八 十一月十五日
 八 十二月二十日

り天祿宮ハ長門町ニあり小幡社の各町ニ敷在する
もの全枚一冊一

寺院

住生寺ハ善光寺の西八丁の山寺ニ在る一小院ニ志
る東南ハ再び風氣頗る佳なり親子地蔵堂に本迎
の松ありむろ一箇前の園主カ藤左衛門依重氏藤左
して等阿上人と号し妻を殿様高野山より南無
光寺に來り此地に學庵を造り無件に餘念なく建
二年八月癸卯年八十二ニ至りて悪化を子不堂丸又を
存ね來り同寺廢す候一建保四年癸卯年六十五ニ至
性生を親子地蔵ハ其の由縁ニよる又此寺ハ浄土宗
あり浄土宗ニ至りて慈覺大師の建立せし實是寺ハ東

之門町ニ在り西町ハ西町ニ在り十餘町ハ下後町
ニあり西町ハ不堂ニ在りて不堂丸の白旗たり其
宗ニて康平寺ハ東町ニ在り此法寺ハ上後町ニ在り
辨り寺ハ極寺ニあり此宗ニて善信寺ハ四町ニあり
裁松院ハ不堂ニあり親近寺ハ山内の世宗院ニ在り
て中宗院ハ親近寺ハ山内の世宗院ニ在り
後より出願せし像なり其他小堂宇一二ニ置らる

官衙

長門郡衙ハ明正七年の新築ニて規模宏壯日本風
の建物なり旭町ニ在りて地域廣袤三千六百九十餘
坪位遠近を管轄す裁出ハ屯咲町ニあり明治十
九年の建築ニて地域廣袤二千九百五十餘坪位

長野縣廳



長野縣廳の建築は、明治
 十三年に、監事新築し、後
 監房を増築し、面積一
 万二千九百九十餘坪、役所
 へ、茶所、在り、長野所役所
 之、隣りに、警備署、西橋
 町、在り、郵便電信局、後
 町、在り、大井区、界、八、山
 二、在り、長野側、係、八、山
 二、在り、係、八、山、係、八、山
 二、在り、係、八、山、係、八、山

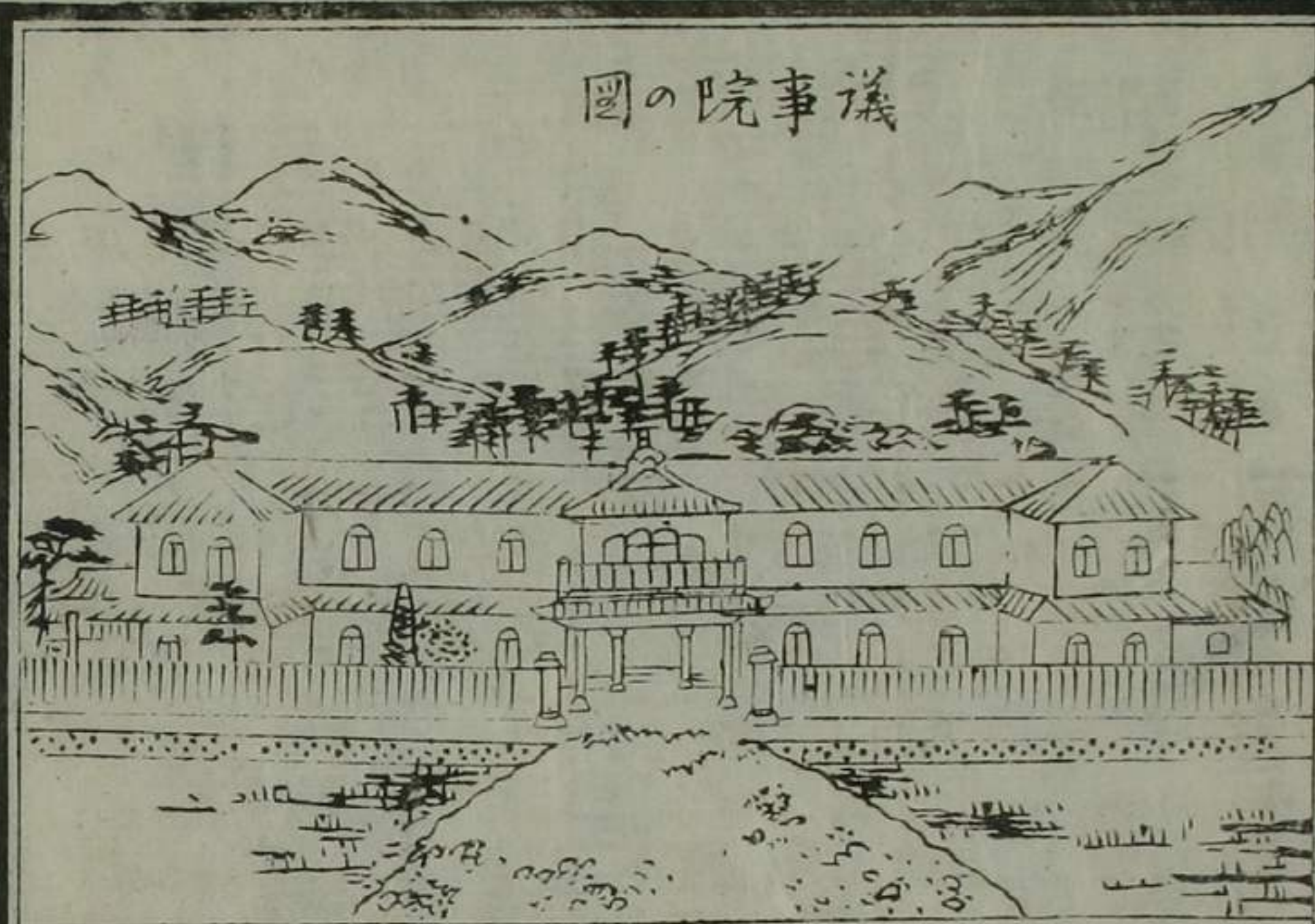
議事院

議事院の建築は、明治
 十三年に、監事新築し、後
 監房を増築し、面積一
 万二千九百九十餘坪、役所
 へ、茶所、在り、長野所役所
 之、隣りに、警備署、西橋
 町、在り、郵便電信局、後
 町、在り、大井区、界、八、山
 二、在り、長野側、係、八、山
 二、在り、係、八、山、係、八、山

長の専断
小学校第四
年六月六
日のめに
議決
今再議中
あり

室あり校舎あり
 備あり明治二十年の建築に係る高小小学校校長豊満
 常小學校の善美市の東南城山の麓に在りて明治十
 一年の建築なり又高小の大建物を一として階上度間の
 如きの生徒五人を容るべく教室の敷居指すべし
 らざるの多き阿波海町と同敷地阿波市是亦宏壯の
 建物なり生徒の強弱の高低小學校凡そ六百餘人を
 り師範學校附小學校並に幼稚園旭町にあり
 敷地充分所ハ城山にあり曹洞宗學校ハ東町にあり
 何れも甚大あり
 濱刻地附寄席
 東之門町に巍然たるものを宿屋といふ近年の建築

議事院の圖



學校
 長野縣立高小學校ハ縣
 廳の西に隣り規模廣大建
 築又仕業生徒男女を容
 容んと三百人を善不構内
 面積五千四百六十餘坪外
 九坪採地二十坪議事院あり自修
 室ハ文付室後帽室オハ
 階下ハ阿波暗房器壁雷格
 室内電話は至るまゝ内外
 一も備はらざるなく御
 心ハ前子登梯を構ふ

薩摩
四年六月
癸卯の
陸夫

よしと強んぶ完旨の割地あり又公園の外畝城山の
を狩りて三幸座といふ所なり軍内敷次東京より能
を狩りて興りて拜城の中八番棚子狩地と見せ奉
い東所子東家あり長門所子立在なり海路手踏
を渡りて氏首等常子興りて毎夕請来くくの事
絶ゆることなり

鑛泉

善光寺の近傍鑛泉多し旭池池邊山神の鑛泉あり
きも西水の山手より地邊山神の善光寺より
十町内あり過ぎさきとも旭池の鑛泉あり
り此鑛泉は福在川の流岸より湧出たり大に鑛泉を
を以てレウマチスナ適き流るる山流の石に女を

人衆は畫かき風光至極画室あり
く山阿に在りて善光の鏡を新くも
新然として十数里を一瞬に眺下り眺望頗る佳
り市中の神士豪商風流雅客常に來往す日曜日の
波聲達亦賑く來りて一週日の聲を競ふるあり

市中繁栄

善光寺の町は人口概ね三万中第一の繁栄あり巨
敷凡そ六千人概ね三万中第一の繁栄あり巨
善光寺の町の人口概ね三万中第一の繁栄あり巨
置かれし以て戸数人口蓋繁盛をせり市内大門
町上段町下段町新田町東町西町東横町西横町
善光寺町内法然寺町東之門町西之門町俣野町定石町

多し貨物の出入り人の職賃頻繁と極め此國より備
 氣人ハ毎日平坂一千人を下らむ中夜に船を編な
 るに他子孫と見ざる所なり

停車場

ハ東慶所不若町の東端にあり先年此地ハ田圃あり
 一畝を布設し茲に停車場を置かむより漸次家
 屋を建ちて二所をおき此停車場ハ東慶所直江津と
 上信國境なる鞍井河との中間にあり降り降りの客
 頻繁を極め一日四回客八回の乗り降り降熱南新野
 を摩し舟を賣くの様なり東慶所支店ハ藤原支
 店藤原支店山屋支店藤原支店中島支店宮前あり各
 店男女五人車と相げり招き街を極め近江彼走

子南に比きよか互に競
 ふと客を延き高海の客ハ
 多し多し本高子高き此地
 新中法経院あり玉実
 堀あり西洋料理店あり中
 半子会社内園運気社ハ
 本運物会社支店あり其他
 種穀肥料資糧小販等の店
 軒店一ありを鐵道
 市況心來長年ハ更に一繁
 盛地を再振したるものな
 り

停車場之圖



檣

ハ東西より西を表檣重と一東と兼檣重とを先年
名取嶋を置て西を延て吹吹頭ふる好業
を熱めたりしも明治十一年官其民屋に橋一焼業を
築むを禁せしより東五町を距りて一廊を設け之を
橋せりてハ乃ち所藝妓あるものを許せられ本
地室に其菓室たり新玉屋島田屋新橋屋本屋大和
屋三助屋柳屋福本屋又川上藝妓と稱して鐘鏝
川上角屋川上屋越女初壽屋等あり毎軒燈を掲げ
屋号妓名を書して招牌と稱す大小妓の強弱六十名
内外多里新築屋橋本屋地子角く二川玉酌急の外
玉川喜雲字山城樓深屋鈴屋藤井松本松本枝等あり

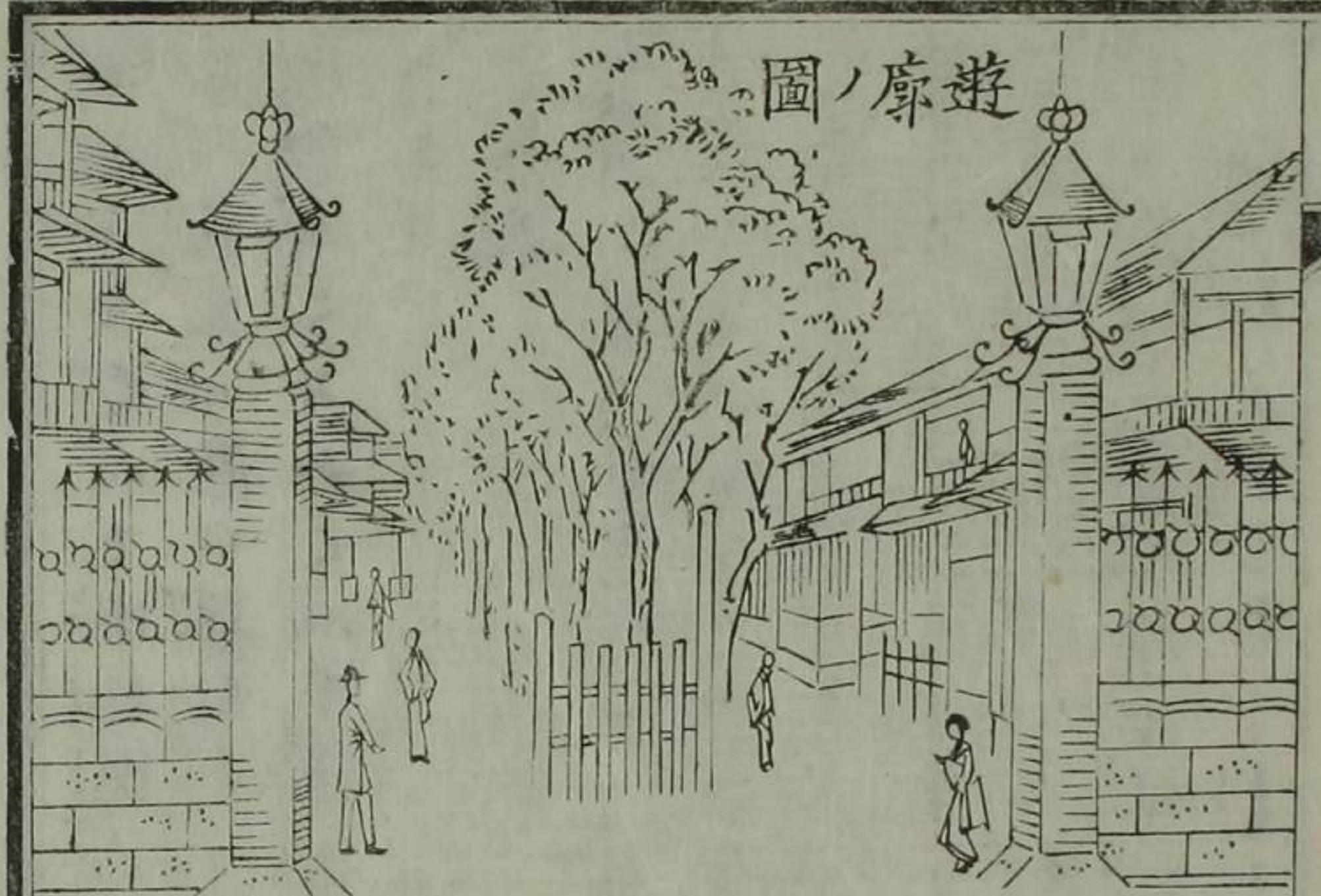
西山の香んで漸く燈を点むるや聲を伸し
子夜來り遊ひ強弱の舞踏廻四村を供不其
熱園湯くおわく以て遊部の高島と称す
るあり

極

檣重を置て東五町一廊を設け長野遊部といふ
内地地東西百二十万南八十万面積一万坪西子大
門あり之を入口とせ入口より遊部の通りを仲之町
と一伊の所の小藪通りを松ヶ枝町と之以南藪通り
を伊去町といふ先三丁目あり明治十一年の新設
係る新内ハ喜橋屋比連橋一仲之町通りハ高例
子橋を植之柳を移し喜玉喜ハ新吹を芳雲燦燈の

世と云ふ解ハ皆小見世よ〜て強て四十餘軒娘妓の
 数凡そ三百五十餘人藝妓も亦之ヲ準して其数少
 らを實に信中第一の仙洞あり遊家ハ四時強るゝ如
 く軒齊轉輪曉は遊〜て已まを殊に夜時ハ至りてハ
 素見増集〜風を淫〜藝を品生娼妓ハ公衆を列生
 〃を大見世を遊〜之に脂を潔め白粉を塗ト
 彌衣襟を正〜鏡常高く強〜以て素衣を付つゝ
 師の格子解〜來るあまハ終〜接を語り織物燈籠を
 どりお忍先づを賣ひて博郎ハ契せ〜む其横裏高
 席のす様と蘭序双枕を靴の状態ハ虎筆の相〜所
 へまよあらま

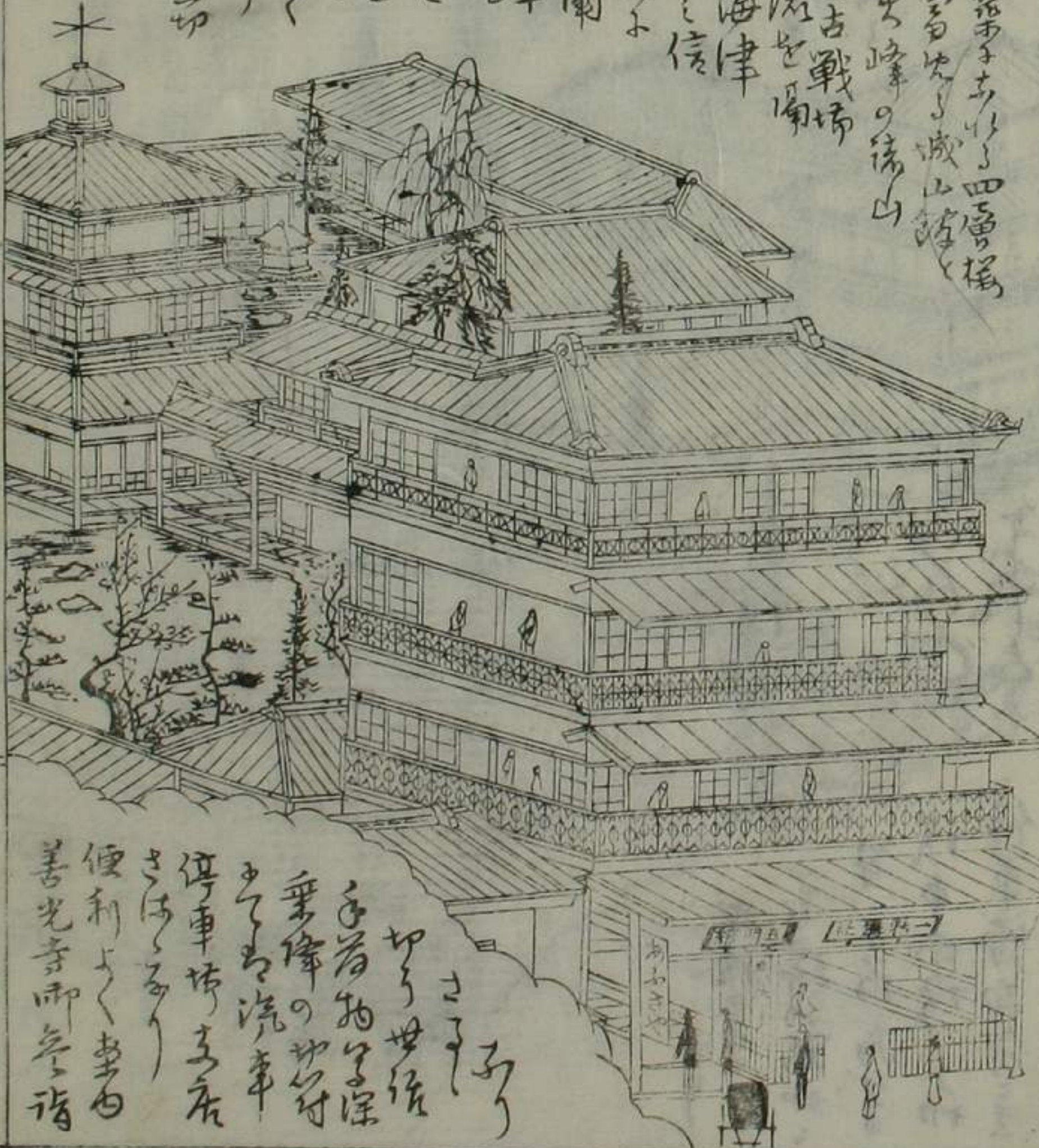
遊廓ノ圖



可下湯か〜秋ハ中ち明月
 中天子掛り〜素衣を舞
 袖滿瀧の石を照らす武
 の奉蓬萊の秋葉〜て浪む
 工豆ら〜其妓の衣玉大
 古るものを筆〜まハ紀伊
 屋仲〜といハ柏屋町とい
 ひ榮屋町といハ不之を大
 如世と云之ヲ垂〜ものハ
 二葉榎本高橋様越々屋
 中屋金井屋文藏様仲之三
 〃一校所〜よ〜て之を中
 見

五明館の四層樓之圖

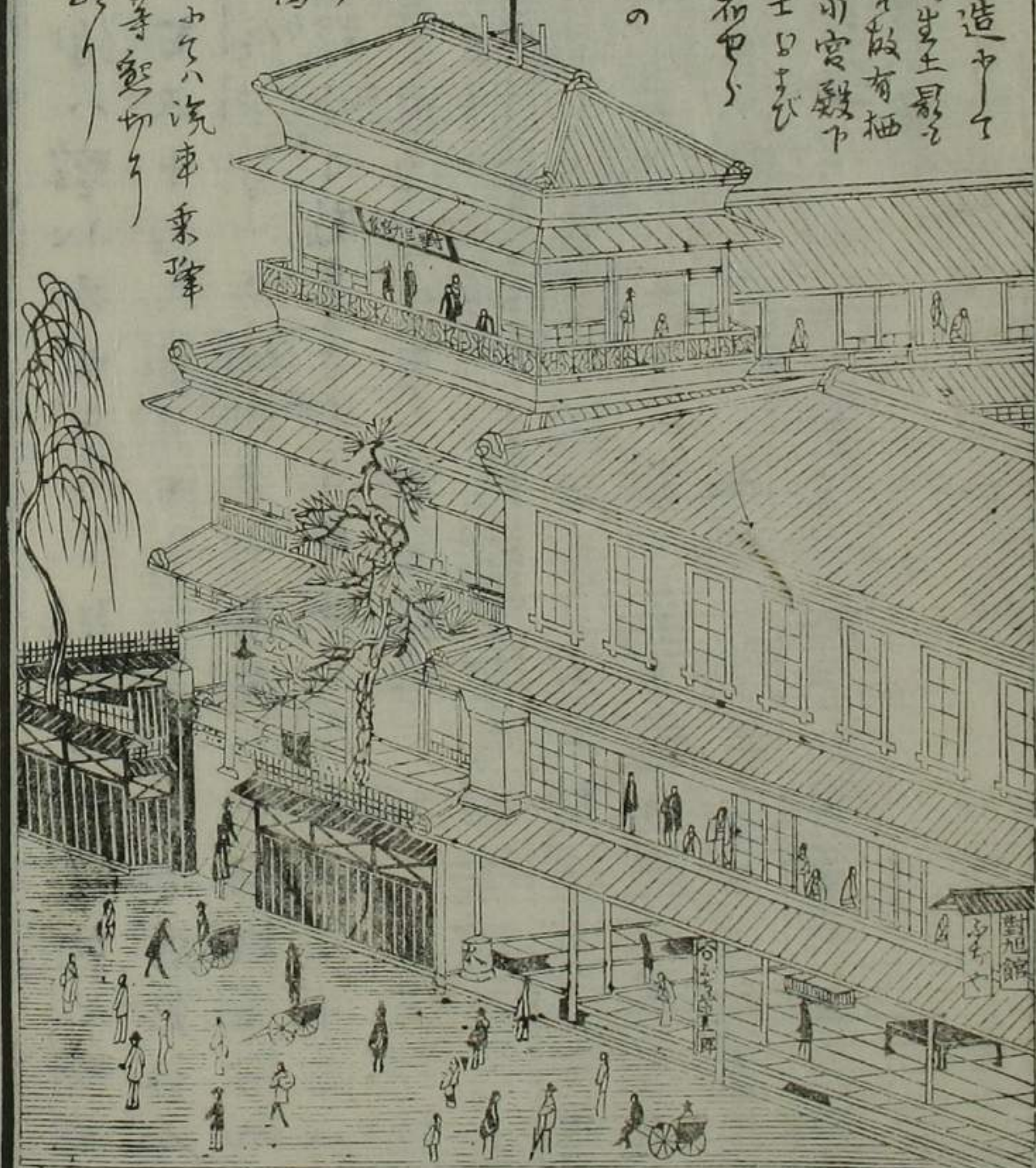
五明館ハ最近の建築事あり四層樓
 あり其眺望の富は山城山崎と
 伯仲の富あり旭ヶ峰の西山
 を望み川中流の古戰場
 摩訶子曲川の長流を南
 下好後山西麓の海津
 城址茶臼山を望む信
 上園境一帯孤山嶺小
 對丘陵陵墓林田圃
 村爲五郡一沙三十
 里其風景の佳麗
 亦亦替り旅情を
 慰あつたる客室
 ハ多敷なるを併せて
 尚あるを以て觀望
 無事之電燈の設置
 注と園境大付過切
 食味口香の適り
 群の洋風の上
 善くして



切り世は
 手若物も深
 垂降の妙付
 きてお流車
 停車場より
 便利よく善白
 善光寺即ち詣

對旭館の三層造之圖

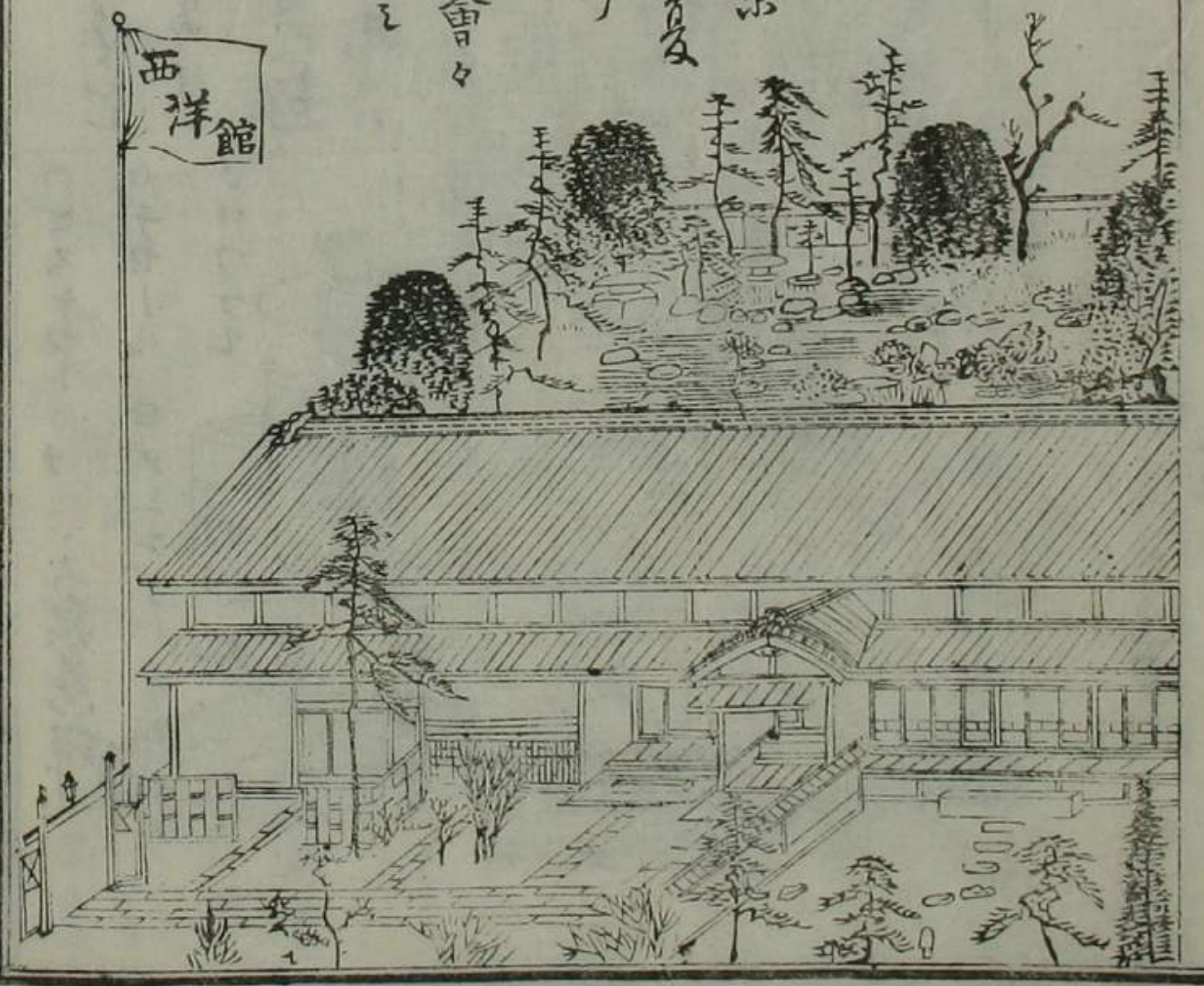
對旭館ハ三層造なり
 堂氣軒舞臺生土屋
 高切あり旅舎故有極
 川宮殿下北白川宮殿
 其他貴顯紳士日
 西洋人等皆宿也
 水々
 善光寺冬旅の
 信あり



内庫入り常炊
 明押焼香日月
 牌血脈お清り
 粧合よく繁西
 停車場より六汽車乗降
 切符手荷物等整切り
 世話よく如

柘モ洋衣、佳味モ居養ノ
 多量ナル比モモナシ奈華
 君ニ觀ル慶アツテ本地ニ業
 スルヤ幸ニ時好ニ適シテ日
 月ニ製盛ヲ加ヘタリ
 今ヤ各室ノ粧置庭前ノ光景
 一モ供ハナサルナリ空氣流通夏
 以テ暑ヲ忘レ冬以テ寒ヲサテ
 知ラズ豈仙境トモ言フヘキカ
 謂ニ衛生ヲ重セラルル各位ハ會々
 西貢監アツテ長生ノ歡ヲ享セ
 結トト爾云フ

明治廿六年正月
 西洋料理
 長野 荒所 西洋館



信濃名所案内

水内郡の部

○ 神代梅 ハ長野所の
 西ハ一里半山手なる梅村
 名平ニ稱シ社の境内ニあ
 り魁輝周郎ニ及ス尺余地
 上を纏リ、又六百ニ
 枝三つニ岐ル東西十三間
 三尺南ハ十五百ニ歩リた
 る大梅ニシテ神代梅の名
 子死ニ在リ時ハ遠近杖を曳
 き来リて花下ニ舞酒を傾





地なり
 ○フラン堂 八何吉
 光古は在り敷太の絶
 穴を穿ち之に架四本を
 一此上に堂を作る正
 百奥より一石半橋を架
 人を通きまとも平日ハ
 を撤し毎年四月八日の
 時の五時人の氣清を
 人は堂より入るとハ
 ンく敷くたユフラン
 と之不長堂を臨む小
 二十

くるものま
 ○熊籠山 八保言神を
 領百不里宮ハ萬安又在り
 是まあり 萬安ハ長野より一
 ○戸内山 奥社手力雄
 神の岩窟あり中社ハ天思
 祭を祀る白社領个不案
 威靈小隆を以て出園より
 ○水内橋 久米路橋ハ水内
 絶壁の下崖川の深淵子架
 丈四尺橋柱三尺水上を
 戦栗せざるものな 風光
 くるものま
 八保言神を
 萬安又在り
 一里山手
 奥社手力雄
 祀る傍ら
 九頭龍大
 中社ハ天思
 祭を祀り
 寶光社ハ
 表裏
 出園より
 人甚ど
 難
 水内更級
 の郡界
 了危岩
 架橋長
 十丈
 又尺
 度一
 丈
 四尺
 橋柱
 三尺
 水上
 を
 懸る
 又
 丈
 案
 を
 過
 くる
 も
 の
 風
 光
 明
 媚
 本
 園
 名
 の
 傍

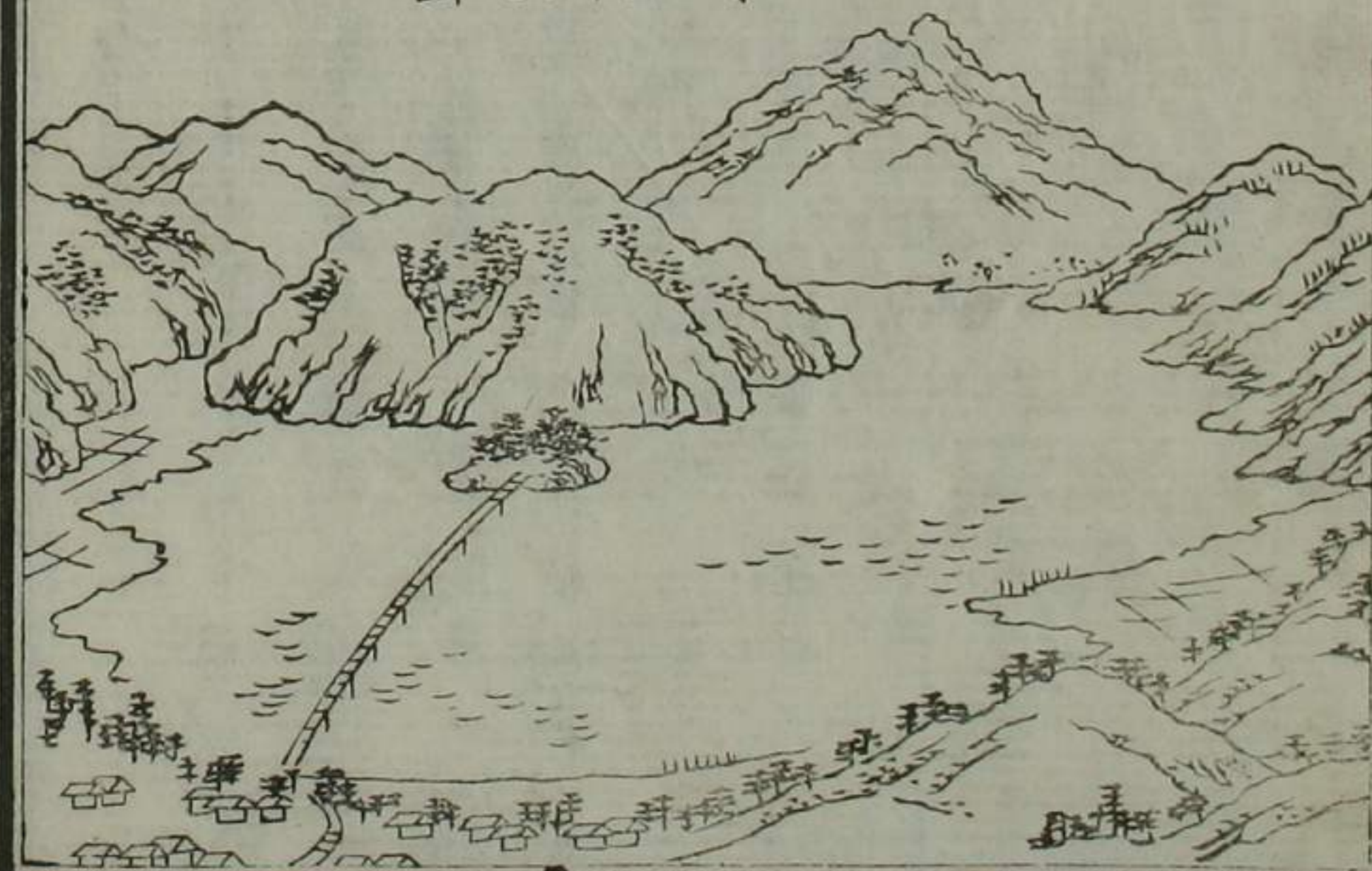
里弱

○聖尻湖

一ノ美菅湖

ハ聖尻の東南に在りて東
 西一里南ハ一里三丁周囲
 三里三十所湖中に小島あり
 聖尻湖と云ふ并天を
 祀るお傳ふ天至二年の鏡
 座なりと云島に御朱坐る
 に昔時ハ舟なり一が近年
 橋を架きて長六百間遠望
 さまハ殆んど長寛の掛る
 所如く風光奇絶なり

野尻湖之圖



の後舟遊魚を釣るもの多し

○地震源

聖尻より二里を隔て、越後との國境

にあり、懸崖に河水甚多く、潭あり、是より瀑布の半々、是より能ハき

と、震動を感ず、此名あり、之を不惑口八間、線深採る間

言も之より、同く、此湖の、是は、瀑布の半々、是より能ハき

風色、雄偉、奇絶、之を、人、力、な、り

○飯山

ハ越後長門、二達する、所、是、を、國、を、二、層、ま

る、小、考、念、なり、上、格、系、傍、築、塔、一、後、本、多、惣、封、を、移、せ

し、より、世、襲、の、城、市、に、一、々、市、城、十、五、戸、数、凡、一、千、五、百

は、地、高、工、業、頗、る、多、なり

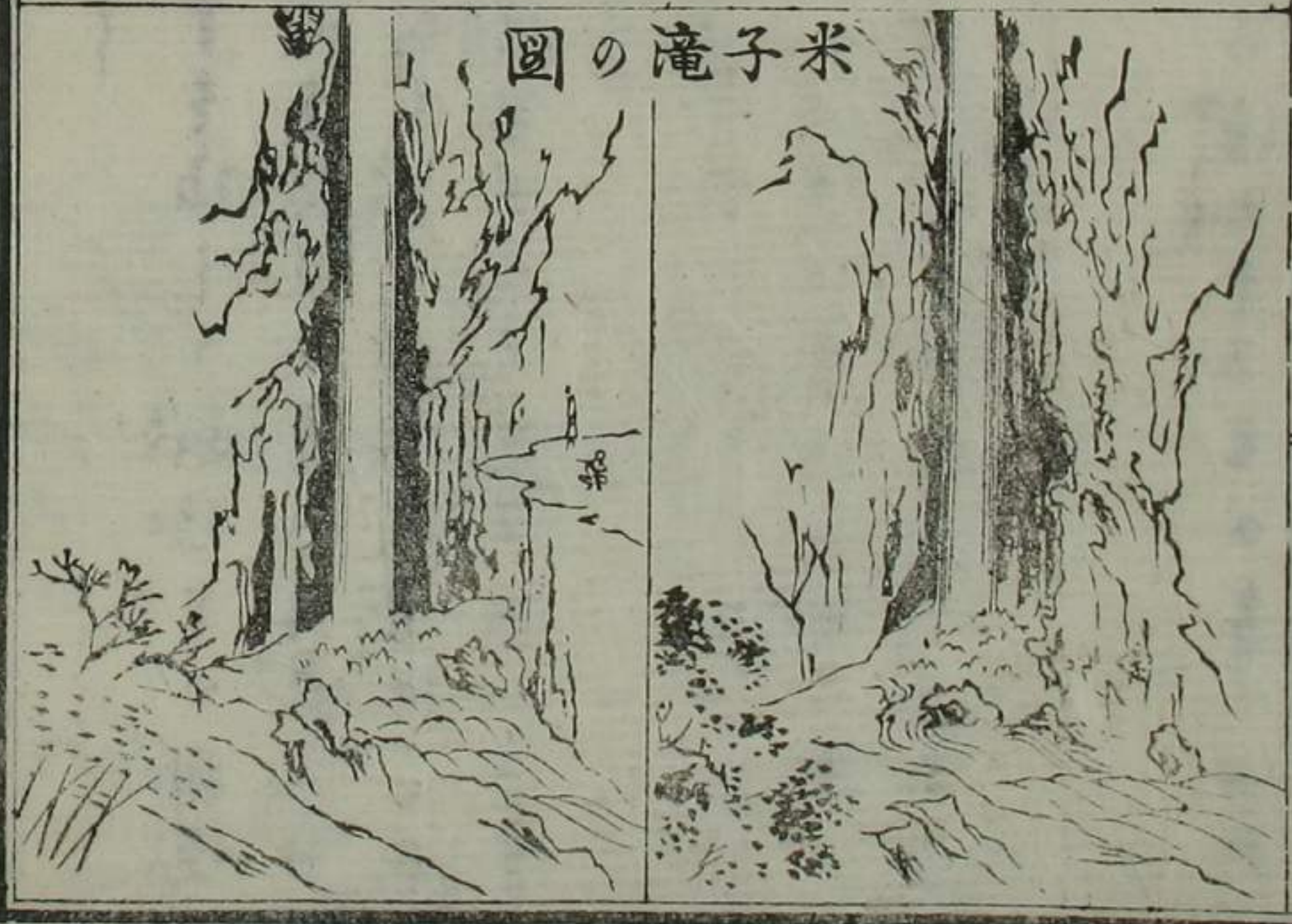
高井郡の部

○温温

本郡中温東の湯出するもの多し、田中

河原安泰の湯ハ平粒村
 にはあり角野の湯ハ佐野二
 在り山田の湯ハ奥山田に
 あり箕作の湯ハ坂にあり
 聖母の湯ハ芝村にあり
 純きも特殊の効能あるも
 能くも美名よしとて温泉
 には充溢せり

○米子村に二
 瀑あり東を梓川と云い
 高さ七十丈幅一丈二尺西
 を不動瀑と云ふ高さ九十



丈幅一丈一尺傷に不動堂あり東西二瀑の距離一丁
 許何事も岨崖より流下其夜は此地に越ふ者常と
 して皮膚粟を生ず本國名物の漆布あり

○須坂 八元永年百五十五戸ありより世襲
 せり謀事として市坊十一戸あり百六十五戸あり
 甚大なり殊に本地ハ生糸を製造するところ本玉美名
 の心子として毎年千捆を輸出す

○中野 八初め高梨政経之子授り徳川氏より
 世々陣營を置き隆新の際中野を置かまき一戸あり
 市街農産物産額本國の一小者なり戸数凡九
 百余

更級郡の部

弱の勾碑あり
 伊や嫁いと
 りなぐ月
 の友
 とせ銭

武水別神社八幡宮圖



娵捨山の圖

○娵捨山 八幡村の
 南子ありて本邦名なる
 親月の猪地なり娵捨高不
 又餘捨十石右の寸子毫を
 立つ故光院民衆と云ふ
 又海月教なるものあり
 二百年毎八月十五夜ハ
 甚近の強人墨客此に杖を
 曳き詩詠俳諧に風情を詠
 べ終宵月を費すを月夜
 峯山頭子掛り清光曲川子
 映し重龍波子澄るの風光

ハ他子得て見了純ハざり所たり 冠着山を去の娵捨
 山なりと云ふ説あり
 ○武水別神社 ハ八幡村にある社日して白時
 二石必の朱印地なり社地頗る度く樹木鬱々して
 殿の本社棟瓦御所依敷社末社多く是近き葉
 して葉詣するもの陸續たり例年春秋大祭の外十二
 月十二日の遷祭を以て亦も甚なりと云
 ○康奈古 ハ遠味村に在り龍恩院と号す西佛法
 師の拜基なり親鸞上人の遺物を始め茶碗の宝物什
 器を有するものあり
 ○河内島 とハ千曲原の河内子と埒解及級在
 内高井四郡に互する平地の地あり西条山ハ東に葉

元是英雄酣
戰地西山雲
合雨冥々須
史雲散雨還
歌萬頃平田
稗柏青
詩佛老人

白山ハ西に對峙し天文宮標取甲越戦争の修築地
かろふおあふ各村落の古蹟を尋ねて井田部
の墓ハ々井ヨあり若角豊後守の碑ハ唐田に武田左
馬次郎の墓ハ柵川に高塚正の塚ハ園玉ヨあり
○為那橋 ハ更級内内の形畷お岩お澄する并
架木水上を渡る事と云ふ大條強人と云内橋と同一
様の工を施せり其宗色赤國より佳なる事と云内橋
ハ及び藤

壇科那の部

○首尾 山内神社 八代音村と新津の築津せし
コシ々南西ハ斷崖屹立千曲川其下を環流し頗る
馬害の地なり東ハ山麓ハ昂ち坂城村よて古蹟あり

翁の石あり
岩岸やう
はら月の友
いと
とせ成

村の藪端に翁の墓あり又坂城神社ハ社假詳かな
らさきども人々十二代宗以天文の御宇勅遷せし
の之い傳ふ村と家より三百貫文武田原より七百貫
文の朱印地あり
○耕字 八南条村崩はあま往古櫻尾ヨ在り
を中世々の地ヲ稱せるなり横尾ハ玄玄と云ふ名
産の煙草あり是ハ玄玄と云ひる俗の作りぬめし
りそ名ありと傳へり寺ハ位立自筆の書新吉原
三浦屋の聲波高尾お被振の打寄書條の什寶あり
○岩岸 八小孫壇科の形畷し々危岩峭立園を
昔巖を通す仰を足る時ハ絶壁々々麓下一來らんと
まをを以てり人橋を築するものあり然るも千曲

滝電親王は
 存望家には
 ありて
 下にある火の
 電さすハ松
 ぼのみゆのさ
 むるせは

別所温泉



糸津を以て入浴するもの
 赤穂の地は富む上田を詠る西
 力二里
 ○ 國分寺 聖武天皇
 平年中興國子國分寺を立
 らせ一團の位尼を司る此
 寺即ち其一日して遊之也
 も古く毎年一月八日ハ
 十数里外の人も来り詣で
 國分寺の地は富む上田の
 遊之るのを贈り肩下

川園を以て治ふて治き山お映とて風景絶佳なり此
 地又湯の多きを以て名あり
 ○ 松代 ハ武田晴信築城一基四倍之上田より村
 を移せし以来世慧の城なり須坂中野飯山を強
 越後と赴くの所なり原を市村三十二戸敷路んと二
 千近年製糸及養蠶の業甚だ盛なり

小坂郡の部

○ 別所温泉 本郡赤温泉多し大浦又湯久森浦大
 引浦或高湯ハ別所村にあり掛の浦ハ湯掛にあり
 子掛の浦ハ田原にあり壺谷の浦ハ壺谷にあり
 その他霧の湯蒸着の湯川原の浦ハあまきとも別所を以
 るむも甚なりとて是を圭回ハハハ向山厄澤親善あり

て改る是を八日等語と云ふ上四より東南一里園分
 赤村子あり
 ○和田嶺 八中嶺と云ふ
 原をよき名に改るはして
 小孫孫才西郡は清りり程
 殆んど六里本園最長の時
 なり終上を以て部界を
 東隣屋西隣屋八岩の東
 西に在りて名相の餅を賣
 り又旅客を宿せしむ餅
 新の際此戸浪士此地は櫻

國の寺分國



り此方藩士と闘角を戦死者の墓八岩西の半復善学
 の標に存せり

○上田 八長學に垂げり考云まして形設所あり
 裁出所あり並微異あり藝家異あり高智小學校尋常
 小學校女學校善養學校鐵道郵便電信局東京會社鐵
 物會社等あり地勢平坦にして河川四通一徹斷崖接
 たり初め生田尚幸築城一後松平忠固封を封てよ
 り世襲の城市まして市切三十戸毎殆んど三千番種
 上田驛上田油ハ此地産物の重なるものなり

依久那の部
 ○松原郡 松原村は二湖あり大湖尾長湖と云ふ
 大湖の東西に諸方上下神社ありと山岳の風景頗ふ

わまらるる上
浅野のたけ
の丸ありま
ごりごり
へん思ふ
り
原野

藤原ハハ七高なりと
いふ
○浅野山 ハ本邦美名
の噴火山ありて四面峭立
や攀頭なる難山巖又一
大孔あり常に火烟を噴く
を固凡一里世伝之を
嘗と名く天明三年四月よ
り数月の石砂礫を噴出せ
る事積りて追分原の境
又礫研たるを以て當時の
慘状を想像するは餘きり



る僅なり向社領三十石より一村総て南米印地な
り此湖深さ數十尋中石塔あり晴天の日年天島
より之を見らるるはくくくくくくくくくくくくく
○碓氷 本國と上野との國界ありて古昔日本
武蔵野原を穿てあらせらるる山嶺に磐石大神
の社あり此地春秋之際一木葉葉深まり湖山嶺中
るが如く又鉤踊を演ふに似たり國を崎嶇とくく山
嶺を函せ
○輕井澤 ハ碓氷の浅野の東麓に在りて南西
に度濃の原野を抱き空氣清良酷暑の佳と名く藤氏
の遺蹟針八十度と上らるるに内外の貴族紳士の
地に避暑するもの年々増加殊に御幸志士の轉地



○ 諏訪上下神社 中
 村はありを上下社として
 寸村はありを上下社として
 市名寸部八坂刀賣命を祀
 る本國の一の宮として國
 中社なり春秋の祭典
 たりと陸も七年毎に八
 る市極祭を最も盛大な
 りとを此社にハ神寶古器
 相神庫に熟つ
 ○ 諏訪 上諏訪ハ郡中
 繁華の地として甲州國を

上原を祖乃民刻婚の地として中世諏訪才頼忠村を首
 領し子孫を世襲の地となりて
 頼朝比相貨頼廣戸教凡そ一子八百は地方近年世系
 業をたき子一子孫下第一に在る其業造純良なるを
 以て大に譽を蒙る海内は懽せり又温泉あり泥沼瓦形
 あり奥野に湧出せ

伊那郡の部

○ 駒岳 八本首と伊那との界に在りて其山脈干
 線に互に互に森坑経緯は三十六峰八千餘と云ふ本
 國屈指の高嶺なり絶頂は約嶽神社あり其夜の候に
 星り祈願のおめを遠望するもの多し暖岳峰を白
 雪の下に現り夜當冷き雪を覚ゆとつふ

○ 周原

ハ古来の獨地
筆本伏屋等の
古跡あり美濃坂本一の通
路に居る由置宗稱の地
之詞苑の詠詠甚だ多
々一 二を

その原やふせまはるるこま
りといふはあまぬ果哉

とくさ新るそのはら山の捕より
又ふまきいつるあまの夜の月

源 仲 正
ハ 高 遠 上

○ 鮮持棧
り取下子出る函流る

圖ノ道棧持鮮



山嶽子架一たる棧をなり
嶽原立三峯川の源端其
麓を流る重累たる岩不函
流の上を覆ふ葉危殆健な
りと陸もけくは狗懐を
て諦視さべあらざるを
覚

○ 高遠

ハ本國南端の一者云々
土壌少く
市なり 珠山 高遠 市場二十戸数凡一子二百町内頗
ふり 勢 兼 の 地 あり

○ 飯田

ハ本國南端の一者云々
土壌少く
南下せるを以て事候温暖
冬は高林屯て見る建保年
間坂西氏築城一後氏世
繁の城あり市場二十四
戸凡二千長里を距る四十
里東京を隔る七十里を
距る三國に通する海路なる
を以て貨物の運輸人

市嶽の圖



の住業甚だ稠一紙元結傘
凍器等の毒あり

筑摩郡の部

○市嶽 八本園第一の
高山より四時分絶た
ることなる山嶽に御嶽神
社あり毎年七八月の頃
より登山より登山するも
の繁千葉なるを去らる嶽
麓王嶽村の肉子鞍坂の原
市阿多本百山中奥深子冠
たり王嶽村の名とあるに

角の匂あり
かけこし
あをから
香かいら

谷川の香は
ハミミ生ハ
しを林さ
かの座を
りまづく
らん
近衛孫政
大政

よるといふ福島より御嶽神社迄行程十里

○本宮橋を 八福島と上松の石を在りて昔時ハ

丸木を柱と大木を渡しを横子橋度と板を敷き上

に土を置きたる土橋なり一安安年百長又十六間

幅三百四尺に石を置きて作りたるなり後竟保元

年より又大工修補する所あり一著名の場地也

○夜堂林 信川の崖より下瞰をせハ本宮川の

あそみ遊園並其間遊園の急傾彼に編まはし海し

奇観をみせし所を浦島の古蹟と云ふ或る老翁此

子鐘一と云ふ事ありしを彼の浦島太郎の事と附

言せしよよるならん此地名お霞の島と云ふり

○小野嶽 八小野村とありて本宮街を著名の場

野の地形を占め、松平氏世襲の城市なり。此地、東に
 筑前守と置かれ、明治九年廢藩置縣となり、糸島を
 管する。其の東に、城せし、清原氏の再興と大町、山越、後
 糸島川に達する。新造の戸數はより、又大に之を換
 圓せり。市場四十五戸、數凡三子、二百人、煙稠、密人、を
 湊の地あり。

安曇郡の部

○種高神社 八返式、肉及、比、社、子、と、祭、神、ハ
 種高、足、命、なり。本殿、榊、神、系、殿、由、燈、所、社、務、所、第一、モ
 依らざり、なく、何、時、ハ、大、祝、下、社、系、神、言、事、を、他、由、等、あ
 り、て、多、名、の、大、社、なり。

○野崎山 其、形、倒、冠、に、似、たる、を、以、て、信、濃、富士、の

名あり、山頂、子、野、崎、神、社、あ
 り、其、時、子、玉、り、て、遠、近、を、捧
 ぎ、る、もの、多、し、其、中、子、中、房
 川、あり、霖、雨、の、為、に、水、量、頗
 に、増、加、する、時、ハ、大、に、砂、石、を
 流出、せ、曠、原、に、巨、石、の、森
 塊、たる、を、見、る、之、を、あ、ま、り
 亦、一、佳、観、なり。

○登波橋 八、地、田、所
 より、一、里、半、斗、りの、山、中、に
 あり、千、尋、の、空、谷、断、崖、屹、立
 せる、上、に、架、き、長、三、十、八、間

登波橋の図



幅三弓人を通るをばきとも下をわ暇する時ハ
深淵之層栗せしむ土人ハ解形踏躰絶て意ヲ収まる

ものな
○言本神明言 社村ニありて本郡重なる白社也
即ち仁科六十の強社ト云ふ源二己年伊勢團
より勤請せり社殿仕着身から神さびて其白社たる
をらる浮遊ハ社家等も多ク社頓馬印廿三不除地ニ
又なり

○善本湖 善本中湖本島の三湖ハ連りて大所の
おま在り内善本湖を特に大なりと云ふ日舟遊ハ
一長春ハ慈多から也
○大町 八越後系魚川一の通路ト云ふ仁科

氏累代在籍の地なり市郷の賑をさし相貨又富める
本郡第一ニ在る地田種高お菓ハ大町又亜ぐの市街
なり此地才藝系の業日故進ふて繁大となすなり

此書乃... 明治廿六年六月十三日印刷
 本館第一... 印刷者...
 長野元善町印版師中西龜次郎彫刻

明治廿六年六月十三日印刷
 年六月十四日出版



著作
 發行
 印刷者

勝田定吉

小出喜作

塚田友次郎

長野元善町印版師中西龜次郎彫刻

飯田皆川半四郎	諫方宮坂文弘堂	杉本水琴堂為吉	全柏原松榮堂	小諸山佐傳次	全相場幾蒙舍	上田宮島
飯山上市兵衛	中野金山井重兵衛	須坂山下八右衛門	長野西澤喜太郎	全向根和堂	全增屋豐次郎	

45599

